

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に関する面談
2. 日時：令和4年8月22日(月) 13時45分～14時30分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
松田室長補佐、横山係長、
小西係長(テレビ会議システムによる出席)
福島第一原子力規制事務所
黒川原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当7名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業の進捗状況について、資料に基づき、以下の説明があった。
 - 2022年8月4日に移替え対象HIC(2022年1月末までに積算吸収線量が5,000kGyを超過したHIC)11基目の移替え作業が完了したこと。
 - 10～11基目の移替え作業実績のまとめ
 - ✓ ダスト濃度測定結果
 - ◇ 10, 11基のスラリー移替え時に作業ハウス内でダスト濃度が上昇したため手順に従い作業を中断し、ダスト濃度が通常に戻った後、スラリー移送を再開して移送を完了したこと。
 - ◇ ダスト濃度の上昇の原因についてはまだ調査中ではあるが、ダスト発生対策としてエアイベントラインのホースなど、ダスト上昇に関係すると思われる箇所についての部品交換を予定していること。
 - ✓ 水素濃度の上昇
 - ◇ 11基目の上蓋取り外し時、水素濃度が管理値未満であるものの一時上昇したため作業を中断したが、再度の測定で検出限界値未満まで低下したため、作業を再開し、移送を完了したこと。
 - 今後のスケジュール
 - ✓ 作業の効率化や作業員数を増やすことにより、現状、HIC1基あたりの移替え作業に5日を要しているところ、2022年10月以降は4日に短縮し、2022年度以内に移替え対象となる45基の移替えを完了する予定とすること。
 - ✓ HICの表面線量率が10mSv/hを超える高線量HICについては11基をもって完了し、12基以降の移替えについては表面線量率が10mSv/h以下のHICを対象に行うこと。
 - ✓ 引き続き、ダスト濃度上昇の対策について検討するとともに、並行してダスト濃度を注視しながら移替え作業を進めること。
- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、以下についてコメントした。

- 移替え作業においてダスト高高警報 ($8.0 \times 10^{-4} \text{Bq/cm}^3$) を検知するなど、作業上、これまでとは異なる状況が発生した場合には速やかに移替え作業を中断し規制庁へ報告を行うこと。
 - 2022 年度以内に完了するとしている、移替え対象である 45 基の作業進捗状況について、適宜、規制庁へ報告を行うこと。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. 資料

- HIC スラリー移替えの進捗状況